小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹　広報誌

ぼやあ樹だより

2026 年 11 月号 発行

今月は、消防訓練をはじめ、ぼやあ樹のさまざまな取り組みをご紹介します。
日々の活動や想いを、ぜひご覧ください。
また、弊社ホームページや公式 Instagram では各事業所のニュースなども発信していますので、あわせてチェックしてみてください。

もしもの時に備えて、6 事業所で取り組む消防訓練



ぼやあ樹では、ご利用者様に安心してお過ごしいただける環境づくりの一環として、各事業所で定期的に消防訓練を実施しています。
年 2 回、日中・夜間の火災発生を想定した避難訓練を行い、水消火器を使った訓練や緊急時の避難方法の確認にも取り組んでいます。
また、防災機器の点検も専門業者に依頼し、日頃から万が一の事態に備えています。
6 事業所それぞれの訓練の様子をご紹介します。

神大寺｜2026.9.8

夜間の浴室火災を想定し、通報・初期消火・避難誘導の訓練を実施。10 分以内に避難を完了しました。
一人夜勤を想定したシーツを使った緊急搬送や、水消火器による初期消火訓練にも取り組みました。



消火器による初期消火訓練(火元)

新子安｜2026.9.15

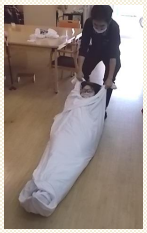
夜間のキッチンからの火災を想定し、通報・初期消火・避難誘導の訓練を実施。
15 分以内に避難を完了しました。
一人夜勤を想定したシーツを使った緊急搬送や、水消火器による初期消火訓練にも取り組みました。



水消火器の初期消火訓練

江ヶ崎町｜2026.10.16

夜間の浴室火災を想定し、通報・初期消火・避難誘導の訓練を実施。
10 分以内に避難を完了しました。
一人夜勤を想定したシーツを使った緊急搬送や、水消火器による初期消火訓練にも取り組みました。



シーツを使った避難訓練

平川町｜2026.10.20

日中のキッチンからの火災を想定し、通報・初期消火・避難誘導の訓練を実施。
10 分以内に避難を完了しました。
水消火器を使った初期消火訓練にも取り組みました。



避難誘導

松本町｜2026.9.9

日中のキッチンからの火災を想定し、通報・初期消火・避難誘導の訓練を実施。
10 分以内に避難を完了しました。
水消火器を使った初期消火訓練にも取り組みました。



呼返し連絡応答訓練

関内｜2026.9.4

日中のキッチンからの火災を想定し、通報・初期消火・避難誘導の訓練を実施。
10 分以内に避難を完了しました。
水消火器を使った初期消火訓練にも取り組みました。



水消火器の初期消火訓練

ボランティアとともに、イベントがさらに充実！

ボランティアの皆様にご協力いただき、各事業所でさまざまなイベントを開催しています。このほかにも、各事業所独自のイベントを企画し、ご利用者様に日々楽しんでいただける機会をつくっています。

11 月イベント予定
神大寺　ギターと歌の演奏会
江ヶ崎町　音楽で脳トレ / バンジョー演奏会
新子安・平川町　健康体操教室
松本町　ハワイアンコンサート(フラダンス)
関内　吟レク(詩吟)



10/5 江ヶ崎町
オカリナ演奏会



10/14 新子安
健康体操教室

ぼやあ樹公式 Instagram
7000 フォロワー目前！
Follow Me

ぼやあ樹ブランドムービー
介護の常識が変わる 3 分間の物語。あなたはもうご覧になりましたか？



介護スタッフ 募集中
ぼやあ樹
週 3〜
詳しくはコチラ
ぜひ一緒に働きませんか？

介護に関するお困りごとや、当広報誌についてご不明な点がございましたら、いつでもお気軽にご相談ください。

相談窓口 ☎:045-620-5540

社長コラム

「希望をカタチに」　— Vol.9 —

代表取締役　石川 洋一



本コラムでは、「希望をカタチに」という理念が、
どのような出会いや想いから生まれてきたのかをお伝えしていきます。

～「その人にしか分からない価値」～

「ゴミ屋敷の方がいるので、助けてもらえませんか。」
地域から一本の相談が入りました。

70 代の男性。
一人暮らしです。

息子さんはおられましたが、普段はほとんど連絡を
取っていませんでした。
現役時代は大手企業に勤め上げ、定年まで真面目に
働かれた方です。
年金も貯蓄も十分にあり、経済的に困っているわけでは
ありませんでした。
地域包括支援センターの方と一緒にご自宅へ向かい
ました。
玄関を前にして、思わず足が止まりました。
玄関先は天井近くまで物が積み上がり、家の中は
まったく見えません。
俗に言う「ゴミ屋敷」です。
ようやく隙間から声を掛けると、ご本人は積み重なった
物と物の間に座り込み、身動きが取れない状態でした。
まずは命を守ること。
介護、福祉、地域が力を合わせ、一時的に安全な場所へ
避難していただきました。

当然、施設での生活という選択肢も考えました。
しかし、ご本人の答えは一つでした。
「家に帰りたい。」
その一言は、とても迷いのないものでした。
私たちは、その希望を受け止めることにしました。
廃品回収業者の協力のもと、ご本人にも立ち会って
いただきながら、一つひとつ物を確認していきました。
「これは捨ててもいい。」
「これは残したい。」
その判断は、すべてご本人に委ねました。
周りから見れば、ただの古い物かもしれません。
しかし、ご本人には一つひとつに思い出があり、
意味があり、人生がありました。
他人には価値が見えなくても、
その人にしか分からない価値があります。
その価値を、私たちが勝手に決めてしまってはいけない
のだと思います。

全ての片付けが終わった後、驚いたことがありました。
ベッドの下の床は腐食し、抜け落ちていました。

もし、あのまま生活を続けていたら、大きな事故に
つながっていたかもしれません。
大家さんも事情を理解し、床を修繕してください
ました。
多くの人の協力があり、ご本人は再び自宅で暮らせる
ようになりました。
それから今日まで。
介護サービスを利用しながら生活は続いています。
少しずつ物が増えることもあります。
そのたびに、「また一緒に片付けましょう」と声を掛け
合います。
無理に変えるのではなく、一緒に工夫を考える。
そんな関わりを続けています。
今、ご本人は大好きなプラモデルに囲まれ、自宅で
穏やかに暮らしています。

私は、この方と出会って改めて思いました。
支援とは、正解を押し付けることではありません。
本人に寄り添い、同じ目線で、同じ景色を見ようとする
こと。
そこから、すべてが始まるのだと思います。
私たちは、その人の人生を完璧に理解することは
できません。
何を経験し、何を失い、何を支えに生きてきたのか。
本当の意味で分かることは、きっとありません。
それでも、その人の隣に座ることはできます。
何が好きなのか。
何を大切にしているのか。
何が嫌なのか。
その声に耳を傾けることはできます。
それだけで、その人との距離は少しずつ縮まって
いきます。

介護とは、生活を整える仕事ではなく、
その人らしい人生に寄り添う仕事。
ぼやあ樹が大切にしている「希望をカタチに」とは、
まさにそういうことなのだと思います。
その人にしか分からない価値を、否定しないこと。
そして、その価値を大切にしながら、一緒に生きる方法
を考え続けること。
それが、私たちの介護でありたいと、私は心から思って
います。

次回もまた、新たな「希望をカタチに」の物語をお届けいたします。

ぼやあ樹